

全科協ニュース

おもな内容 ◇ヨーロッパの写真博物館 ◇「新しい展示」東京都児童会館の海洋コーナー、国立科学博物館の日本の動植物・太陽と宇宙・記念室 ◇全科協に期待する ◇「会員館園の紹介」津山科学教育博物館 ◇会員館園の博物館活動(昭和46年度分) ◇会員館園の5・6・7月の特別展 ◇会員館園の消息(新入会)(移動)(休館)

ヨーロッパの写真博物館

ペンタックスギャラリー 鈴木 八郎

これまで2回機会を逃したヨーロッパの写真博物館視察も、漸く昨年7月、その目的の一端を果たすことができました。

名所見物は一切抜きの方針で、写真関係の博物館8カ所、美術館5、買い付けを兼ねた個人コレクター訪問2カ所、これだけを20日間で回ったわけですが、中々こちらのスケジュール通りにはゆかず、ある所では時間が余り、ある所では時間が足りず、結局ヨーロッパ写真博物館駆け歩きになったようです。

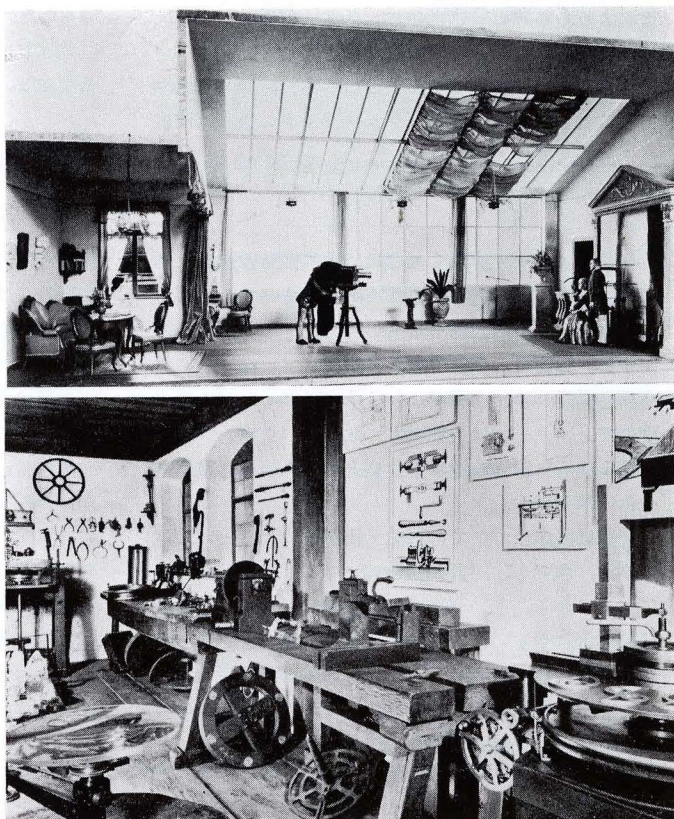
しかし、博物館の規模、内容、展示の方法、保存、管理の方法など、やはり直接目で確かめることで、参考にはなりましたし、風土の違いというもの、何としても直接肌に触れて見なければ分らないものと痛感しました。

殆ど同じ時期に写真の発明者をフランスで1人イギリスでも1人を出しているだけに、歴史的な重要な資料はフランス、イギリスが豊富です。

しかし、カメラ工業国として歴史も古く、長年繁栄して来たドイツは、流石に数も多くその一端を覗いただけでも、充実した印象を受けました。

設備の整っていますのは、何処の国でも国立、公立の科学博物館で、その中に写真、映画部門が設けられているところであまりしょう。

例えばロンドンのサイエンス・ミュージアム、ミュンヘンのドイツチェス・ミュージアム、特殊な例では、パリの「コンセルバトアール・ナショナル・ド・アルト・メチ



《上》 ミュンヘンのドイツチェスミュージアム(昔の写場模型)

《下》 ミュンヘン市立写真・映画博物館(フラウンホーフェルの使った工作機械)

ェ」で、実体は科学博物館、その中の一部が「写真・映画・テレビ」部門です。要するに国立写真・映画・テレビ学校の施設なのです。

ここは流石に発明の本場だけありまして、ロンドンのサイエンス・ミュージアムと共に資料は充実しています。

博物館として設備の立派なのは、ミュンヘンのドイツ博物館で、東京の科学技術館のように、見学者がボタンを押したりハンドルを回わして、ケース内の器械を動かします。

博物館として当然のようですが、科学教育機関として古くから博物館に力を入れているドイツの実態がうかがわれます。

ミュンヘンには、この他に市立の写真・映画博物館があり、ザルツブルグへ急ぐために時間の不足を嘆いたことでした。

ドイツを始め各国にはこうした博物館の他に、大きなカメラ製造会社には必ず付属した小博物館があり、私はロンドンの近く、ハーローのコダック、パリ郊外のコダック・パテの2カ所を訪ねましたが、まだホクトレンダー、アグファなどが特色のあるコレクションをもっていました。

それよりも各国とも個人のコレクターの多いことで、長い間蓄積された個人の富の豊かさを感じさせます。中にはささやかではありますが私設の小博物館をもち公開しているところもあります。ザルツブルグへ急いだのは

このハンス・フランク写真博物館を見たいためでここでは写真発明以前の（例えばのぞき眼鏡）貴重な資料を沢山見て、大変得るところがありました。

そして必ずしも施設の立派さやコレクションの多いことだけが重要なだけでなく、それぞれ何らかの特色をもち、異った性格をもつことが大切だということを知られました。

これはかねがね考えていたことでありますが、目のあたりに実例を見てその感を深くしましたし、今後の方針を決めるのにも参考になりました。

今一つ、パリの郊外にある写真博物館 (Musée de la Photographie) は、現在公のものになっていますが、元々は Jean Fage 氏個人のコレクションを基礎にしたもので、親子二代に亘ってこの博物館の管理に当たっています。今は仮り住いですが、その中に新築する予定だとのことで、青写真を出して、しきりにその理想を説明してくれました。

仮り住いといえば、ロンドン・コダックの博物館もそうで、2、3年のうちに独立した建築物をもてるので、今よりは内容を充実し整備もできるので、英・仏・独3カ国ぐらいの言葉で解説できる設備をつけたいと語っていました。

共通した情熱と夢と（多少の悩みも）をもった人々との交流は、言葉の不自由さを超えて楽しいものでした。

全国科学博物館協議会に期待する

川口市立児童文化センター館長補佐 永山忠夫

全科協ニュースが届くたびに、諸外国博物館および国内博物館の展示物紹介に興味深く読ませてもらっています。『先を越されたなあ』、と思うことが多いのですが、同時に、自分の考え方が誤っていないという共感を覚えます。小規模ながら5室の展示室がありますので、ニュースは大変参考になっています。

第1回全科協博物館事業研究会も、今後とも発展させたい事業です。

今回は展示についての講演・指導をいただいたわけですが、中でも、「実物を集めよう。」「入館は少なくともよいから。」という提案が印象的でした。特に後者は誤解されやすいようですが、「質的に高く」という意味で受けとめると大切な事であるように思われます。ただ、展示の意義・効果などについては、館の性格などによって種々の考え方があるようですので、今

後ともいろいろな面から、基本的な問題をテーマとして取り上げてもらえれば幸甚です。

次に、職員研修についてですが、Vol. 2, No. 1P. 6に博物館専門職員講習実施の朗報がのっていました。地方館では専門職員の不足しているところが多いようですので、良い機会を作ってくれたと感謝しています。

最後に、研修活動の推進についての提案なのですが、協同研究のテーマをきめて、データを提出しあい、レポートにするような試みはどうでしょう。テーマの内容は、館の運営でも、展示についてでも、自然に関する基礎資料の収集でもよいと思います。お互いに多忙を極めている時に無理な気もしますが、会員の交流という点からも、情報交換からも効果的ではないでしょうか。

《3頁より続き》

海洋コーナーとは別に、5年程前につくった深海潜船があります。フィルムで海中の様子を再現して、5人のこどもを乗せ、海中散歩に案内するもので、これは非常

に人気があります。海洋コーナーの新設を機会に、フィルムを新たに製作し、これまでのものと取り替えました。従前のものよりはるかに迫力があり、これもこども達の人気をあつめることと思います。

東京都児童会館の「海洋コーナー」

国電山手線の渋谷駅の出はりに、車窓から見える「コドモのお城」。東京都児童会館では、開館8周年の記念日（3月20日）に、昨年の「宇宙コーナー」にひきつづき、新たに原子力開発、宇宙開発につづく巨大科学として、世界的に脚光を浴びている海洋開発に焦点を合せて、「海洋コーナー」を開設しました。

①このコーナーの中心は、『これからの海洋開発』という、海洋大ジオラマです。間口10M、奥行4Mで、この種の常設ジオラマとしては、大型のものの一つでしょう。

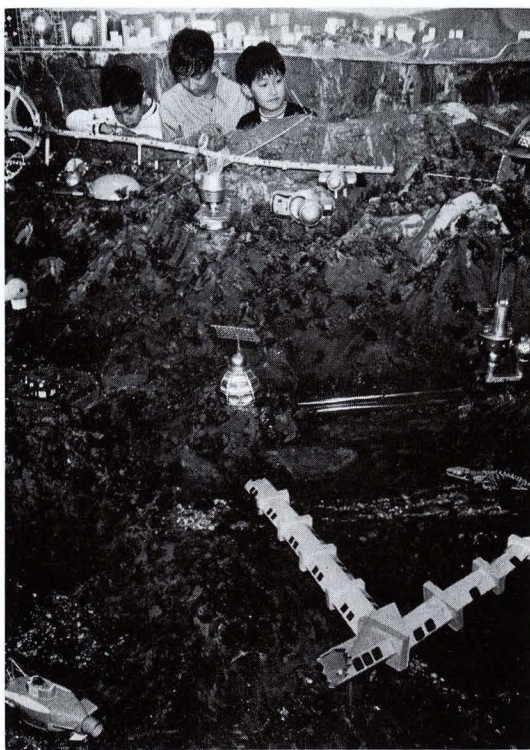
この限られたスペースに、大陸棚から深海までと、可能な限り表現する様に努めました。ジオラマの中には、イルカの牧童がいる海底牧場、海底レジャーランド、海底都市、海底の各種の工場、研究所。これらと海上を結ぶ海底鉄道や、海底遊歩道路、各種潜水船、水中スクーター、海中タンカー、海中ブルトザー、海中モグラタンク、海中エレベーター。深海の暗い海底には、ナウマン象や、巨大鯨の白骨、海賊キッド？の宝を積んだ沈ぼつ船が横たわっています。遠くの方に海底火山が噴火し、海底地熱発電所で発電が行なわれ、海底都市や、工場、研究所などに供給しています。海上を眺めると、海上空港から、最近型のジェット機が飛び立って行きます。海上都市、海岸線には、超近代的な建物が立っています。

又、種々な船舶、自然の景観は、ほとんど損じていません。これは、自然環境の保全に万全を期しているからで、自然を破壊しながら進められる開発は、このジオラマでは見られません。しかし、ひとたび海中をのぞきますと、陸上のそれとは全く別の世界がひろがっています。

人間の社会が、陸上から海中に移動したのかと思われる程です。言葉では表現することがむずかしい大きなジオラマ。（乞是非一度高覧、！）に、100個以上の模型が配置されていて、そのうちの30個以上が動いています。

②『海の深さに挑戦する』というコーナーはパネルと海溝地球儀で構成されています。海の神秘を解明することは、アレキサンダー大王の昔から人類の夢でした。その夢を追って現在まで、海の秘密を……求めて、世界の各国の人々が色々な潜水艇や機械を使って、探検、探查を試みています。この海への挑戦の状況を一目で理解できるようにパネルに半立体の模型と地形を使って表現しました。

また、海の深さや海溝など、海底の地形をわかりやすくパネル化して世界の主な海溝を示した海底地球儀（可



海洋開発大ジオラマの一部

動）が組合せてあります。このパネルは1.8M×6Mで、その中に以上のほかに、海水の温度、海中の明るさ、海中の圧力についても図式で表現するなど、盛沢山の欲ばったパネルです。

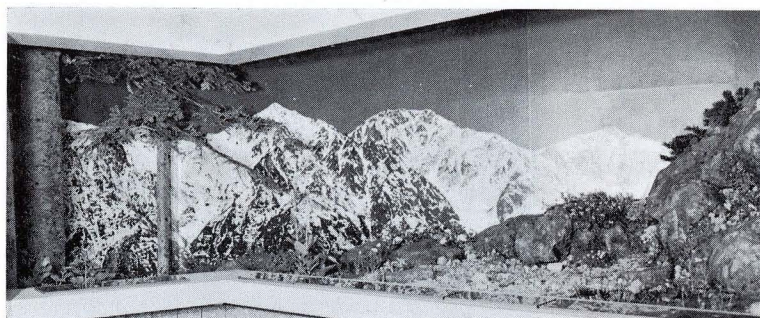
③『美しい海中』は、海洋ジャーナリストの工藤昌男氏と、マリン企画の黒川ハルオ氏の協力により、美しい海中の写真11枚をコルトンで紹介しました。とても色彩が美しいので、こども達の人気を集めています。

④その他、潜水用具一式や、海中ボート「アパス」の実物を展示しました。

以上、新設しました海洋コーナーの概略を紹介しましたが、今回のコーナーを製作するに当たって、今迄にあった海底の模型とは異った、新しい方式を採用しました。それは、海底は暗くて遠方は見えないものですが、従来あった同種のものは、視野の広い、遠方まで一望できるものが多かったのですが、こども達が、海中も地上も同様に遠くの方まで見えて、視野が広いものと誤解しない様に、覗き見方式にしました。限られた窓からのぞく海中の様子（実際はまだ相当のへだたりがありますが）は、従来あった同種のものよりリアルに表現できたと、自己満足しています。

《2頁へ続く》

国立科学博物館の「日本の動植物」「太陽と宇宙」「記念室」



日本の高山植物のジオラマ展示

国立科学博物館では、昭和44～45年度の1号館1～2階の展示更新に引き続き、昭和46年度は、同館3階の展示更新を進めておりましたが、今回、「日本の動植物」「太陽と宇宙」と「記念室」の3つの展示室として完成し、4月から公開されています。

その1つ「日本の動植物」では、日本の特産または特徴的な動植物のおもなものを展示し、世界の動植物相の中でのその位置づけと特徴をわかりやすく解説し、さらに特産・特徴的の意義と、その豊富さに対する疑問をなげかけ、自然の眼で見た日本列島の豊さと、その保護の必要性を考えさせることをねらいとしています。

展示構成は、①入口正面、②植物の地理的な分布を主とする展示、③中央の壁面展示、④動物を主とした展示の4つに区分されています。

①の入口正面の半ジオラマ式展示は、カモシカ、タンチョウヅルなど、一般に知られている日本の名物的な動物と、アオダイショウ、シマヘビなど思いがけないながらも日本の特産であるということで興味を引き、具体的展示への導入をねらいとしています。

②の展示は、樹令約1,600年のヤクスギの輪切りを含めた「亜熱帯の植物」から始まり、親潮、黒潮の影響を受けての豊富な「海浜の植物」、シイを中心とする「暖帯の植物」、西日本から北海道南部の広範囲に分布する「温帯の植物」、北海道サロベツ原野の大型カラーコルトンを含む「亜寒帯の植物」、北アルプスを中心とした実物からの正確なレプリカによる「日本の高山植物」という6区画からなっています。

③の中央壁面展示は、植物分類学的見地から、特産または特徴的な種類を知りたい人のために、菌類、地衣類、海の藻類、淡水の藻類、コケ類、シダ類等の主なグループについて代表的な例を挙げ、また種子植物の数例によって特産種にいろいろのタイプのあることを解説しています。

④はアマミノクロウサギ、ヤマネ、オオサンショウウオ、ムカシトンボなど生きた化石と称される特産種を例とする「残存種」から始まり、「大陸からきた動物」「国内での化石」「さらに進んだ国内での分化」「日本で種の豊かな動物」「海の特産種」「深海の動物」の7区画に、日本の特産または特徴的な代表的なものを展示し、特産種のうまれる筋道として見てゆけるようになっています。

一方「太陽と宇宙」では、「古代人と天文」「天体望遠鏡の発達」「いろいろな光で見る太陽」「太陽の仲間たち」「新らしい目で見える宇宙」「手にとって調べる月の石」「宇宙からの訪問者—隕石—」「惑星の世界」の7区画に分けて展示しています。

この種の展示は、対象が手のとどかないところにあるものが大部分で、展示や解説が抽象的に終りやすいので、それをさけるために、渋川春海の天球儀と地球儀、ガリレオとニュートンの自作望遠鏡の複製、岩橋、国友の製作品、明治初期に輸入された本格的望遠鏡—トロートン社製8インチ屈折赤道儀などの歴史資料標本を始めとして、5万年後の位置と変化が見られる太陽周辺の恒星の分布模型、X線と電波で観測した天空と可視光線の空とを比較できる模型、日本の第1号科学衛星の実大模型、アポロ11号によって採集した月の石の小片と関係資料、300万分の1の精密な月球儀、日本に落下した隕石の実物、美濃隕石の実物とその落下分布模型、新らしいトピックスコーナー、更に新しく60cm反射望遠鏡を屋上に本年度後半に設置を予定し、この望遠鏡でとらえた太陽の現象をITV式TVにより場内に映像するなど、できるだけ資料や実物模本を展示し、人間が宇宙を探ってきた歴史と、現状とを具体的に理解できるようにしています。

同じ3階に「記念室」が新設されました。この室には国立科学博物館が、明治10年に教育博物館として出発してから、昭和52年で100周年を迎えようとしていますので、記念すべき標本、写真、絵画などを展示して、創立以来現在までの歩みを解説しています。展示は次の5つに区分されています。1)博物館のあけぼの時代(明治10年以前)、2)創設期～教育博物館時代(明治10年～大正3年)、3)科学博物館への展開(大正3年頃～昭和6年)、4)東京科学博物館時代(昭和6年～昭和24年)、5)現在～国立科学博物館(昭和24年以降)。

会員館園の博物館活動（昭和46年度分）

Vol. 2, No. 1, p. 8 から続き

コケ展（国立科学博物館，5・16～6・6）国産衛生展（同前6・15～8・31）日本のちょう展（同前，7・23～8・3朝日新聞社共催，会場・小田急百貨店）ラザフォード生誕100年を記念して特別展示（同前，8・20～9・9）

2. 昭和46年4月から11月までに実施した講演会・研究会・観察会等。（ ）内は会合等の名称，期日，対象，協力者，その他の順に記し，対象は，特に限定していないもの，会合の名称から推定できるもの，及び開催場所は省略しました。

室蘭市青少年科学館（第7回室蘭市小中学校理科研究発表会，11月3日）交通博物館（小型蒸気機関車運転会，5月2・3・5，11月21～23，日本小型鉄道クラブ協力◆交通安全教室，5月2・3・5，8月22・29，万世橋警察署・富士防災KK協力◆宿題相談教室，8月20～30◆ボクとママののりもの教室，8月22～29，日本交通公社協力◆少年工作教室，8月20～22◆鉄道車両研究会，5月20，鉄道友の会協力）市立名古屋科学館（婦人科学教室，9～12月◆成人学校，4～10月，毎木曜◆名古屋小中学生科学教室，7～8月◆名古屋星の会例会，5～3月毎日曜◆科学友の会，5～3月毎日曜）科学技術館（ホームサイエンスサロン，11月19～4月30会員制◆サイエンスクラブ，11～4月，小中学生）福井市立郷土自然科学博物館（足羽山の自然を観察する会，5月23，親子づれ◆化石を学習する会，7月4，親子◆海の生物学習会，7月29～30◆採集品の名前を聞く会，8月28～30◆天体観測会，8月12）鳳来寺山自然科学博物館（鳳来寺山パークウェイの自然を学ぶ会，5月9，高校生以上◆植物観察とスライドの会，5月30◆海辺の生物の標本の作り方と名前の調べ方講習会，8月8◆地質教材スライドを作る会，11月7，教員◆うずらの剥製標本の作り方講習会，12月5，中学生以上）秋田大学鉱山学部付属鉱業博物館（化学5学協会連合会東北地方大会共催，9月30・10月1◆電気関係学会東北支部連合大会共催，10月1～3◆日本粘土学会共催，10月4～6），佐賀県立博物館（日本古美術展特別講演会，9月11◆日本古美術展特別映写会，9月15・10月3◆画聖鉄斎名作展特別講演会，10月9◆明治大正昭和名作美術展特別講演会，11月20◆研究講座佐賀県古墳時代とその文化，6月9◆研究講座北九州におけるカササギの分布，9月4他3回）アリタキ・アーボレータム（野草研究会，5月12◆科学映画観賞会，7月18◆銘木見学と秋野草研究会，10月3◆植物現場研修会，10月17◆御苑の菊見学会，11月6）高尾自然科学博物館（高尾自然教室，年4回，都内小学生◆高尾山の自然観察会，年4回，都内小中学生◆成人自然教室，年4回◆鳴く虫の声を聞く会，夏秋2回，観音崎自然博物館（臨海実習，7～8月，学生◆母と子の臨海教室，7～8月）神奈川県立青少年センター（電子顕微鏡特別公開，12月21，高校生以上◆天文講演会宇宙の新しいなど，11月23，中学生◆以上気象講演会，2月20，中学生以上）熱川バナナ・ワニ園（TVサ

マシシリーズ，8月中旬曜日，子供◆全国バスガイド教習会，11月24，バスガイド教務主任）川口市立児童文化センター（月と星の観察会，毎月1回◆太陽の観察会，毎土日曜◆自然観察会，4月6，学生◆火星の観察会，8月6）NHK放送博物館（映画を見る会，毎月第3土日曜◆記録映画とお話しの会，8月3～8◆10月特別映画会，毎日曜，◆高校生のための放送講座，6月20）

3. 館園員の集会等。回答のあったものそのままを掲載します。（ ）内は会の名称，目的，その他の順です。

津山科学教育博物館（天文の会研究会，天体観測を兼ねた星座研究—10月27，23名，）福井市立郷土自然科学博物館（運営委員会，顧問嘱託員に博物館への協力の具体的依頼と館の運営についての意見聴取，）佐賀県立博物館（職員会，毎月の行事反省及び翌月行事の計画概要の説明，◆学芸課会議，資料収集，展示等について意見交換）アリタキ・アーボレータム（職員打合せ，園の事業について連絡を密にするため◆研修会，繁殖技術等についての研究，）熱川バナナ・ワニ園（男子研究会，植物の栽培並に飼育の研究，毎第3金曜日◆女子研究会，一般業務並に礼儀等，毎第3日曜日，）川口市立児童文化センター（全科協博物館研究会，科学博物館の運営◆全国厚生文化施設職員研究会，実技向上情報交換）

4. 全科協ニュースに対する意見は回答少数のため，逐次編集にもり込み，印刷物は，頁数，形式等が不明のものが多いため，追って昭和47年度事業アンケートの結果から取り上げる予定にします。

——会員館園の5・6・7月の特別展——

◆世界の鉄道展（5.2～6.4）交通博物館 ◆世界のこども写真展（5.3～5.28）東京都児童会館 ◆造形作品展（6.11～7.2）同前 ◆鉄道展（5.3～6.4）同前 ◆水道週間作品展（6.11～7.2）同前 ◆庭に小鳥を展（5.1～5.31）東京都高尾自然科学博物館 ◆若越医学史展（4.29～5.28）福井市立郷土自然科学博物館 ◆全国安全週間展（5.中旬～7.中旬）産業安全技術館 ◆第6回世界切手展（4.11～5.7）通信博物館 ◆沖縄本島復帰記念展（6.20～7.16）同前 ◆K・D・D特別展（6.20～7.16）同前 ◆NHK放送展（5.26～6.4）放送博物館 ◆移動放送博物館（6.23～6.29）同前 ◆移動展「日本列島展」国立科学博物館，会場東京小田急百貨店（4.22～5.21），大阪あべの近鉄百貨店（6.1～6.13），名古屋名鉄百貨店（6.1～6.27）山口県立博物館（7.8～8.6）

◆注）特別展名，主催館園名，会場の順，（ ）内は期間です。

——会 員 館 園 消 息——

【新入会】横須賀市立博物館 館長 羽根田弥太 ☎238 横須賀市深田台95番地 電0468—24—3688

【移動】大阪市立電気科学館 新館長 辰巳博（前大阪市交通局森之宮工場長）前館長 浦野俊章（大阪市立中央図書館副館長兼庶務課長に転任）4月15日付

【休館中】竜河洞博物館 木造の旧館を鉄筋建に改築中 本年6月完成の予定

津山科学教育博物館

(TSUYAMA MUSEUM OF SCIENCE EDUCATION)

岡山県津山市山下97

☎708 電話08682-(2)-4519 開館9-17時(年中無休)

昭和38年11月3日開館, 木造モルタル2階建

敷地, 1,275㎡建物延1,635㎡, うち展示室, 940㎡,

収蔵庫66㎡, 学芸関係357, 管理関係, 38㎡

設立 学校法人津山基督教学園

津山科学教育博物館は岡山県津山市の名城であった鶴山城跡, 今は津山市の公園となっている麓にあります。津山市は洋説植物学をわが国に初めて紹介した宇田川榕菴(1798~1846年, 津山の藩医で, 名著『苦多尼詞経』『植学啓原』『舎密開宗』などがある), ほか多くの科学者の出たところとして科学的によく知られた町であります。学問にゆいしょあるこの地に昭和38年, この博物館が開館されたのも, これら先覚の影響を受けたためとも思われます。

創始者, 津山市名誉市民故森本慶三氏が昭和元年津山基督教図書館を創設のときからの構想でありますから, 科学教育博物館は実に半世紀の準備期間をもった遠大な構想が実現したのでありまして, 嗣子謙三氏になって完成したものであります。

その要旨は, 生物進化の理法が理解できるように配慮された点を重視したことにあります。植物標本は主として日本産高等植物で, 下等植物はシダ, コケ, 海藻, 地衣植物などのおしぼが多く, 動物ではほ乳類(ニホンカモシカ・ミナミゾウアザラシなど)・鳥類(カンムリワシ・ヤイロチョウなど)・は虫類(ハブ・タイマイなど)・魚類(オオウナギ・ミノカサゴなど)・こん虫類(世界最大の蝶ニューギニア産ビクトリアアゲハ, ・イヌガシラモンキチョウなど)・軟体動物では貝類(ベニオキナエビス・ミカドツノガイなど)があり, 人体生理標本の創始者故森本慶三氏の内臓諸器官の解剖展示など特別出展も多い。

化石には津山市吉井川床で発見発掘され復元された海生のヒゲクテラ津山市で天然記念物に指定された文化財カキ・ピカリヤなどの貝類のほか, 古生代・中生代・新生の示準化石が多く展示されています。

開館1年後の昭和39年11月には, 淡水水族館が完成しました。鉄筋コンクリート建てで12, 8m×9.5m=122㎡, 西ソデに2m水槽2コ, 1m水槽7コを設け, いずれもバララリウム製であります。中央に巾2m, 奥行1m高さ1.1mの独立水槽があり, 小アクアリウムが数コあって, ニシキゴイ・吉井川産のアユモドキ・オヤニラミ, また特別天然記念物のハンザギ(オオサンショウウオ)が飼育されています。岡山県新庄村の大ハンザギが



死亡して, 当館に寄贈を受け, 立派な世界一のハンザギ標本となりました。

植物室には, 天覧大山高山植物標本, 天皇后両陛下の生物学御研究写真・大生物学者写真・日本各都道府県の花・木・鳥が展示されています。また, 岩石・鉱物の大型標本が展示されています。

プラネタリウム(天象儀)は博物館開館後3年半後に建設され, 京都西村製作所のもので北半球・南半球, 年周変化, 歳差運動を現わします。恒星投影機は二つの球形部分で, 北半球, 南半球を32コのレンズで分担しています。惑星などの投影機は二つの球にとりつけられています。そのほか銀河・赤道・黄道・人工衛星・流星・太陽系の運行・星座絵本などの投影機があります。プラネタリウムは過去・現在, 未来の地球上のあらゆる場所の空を, すぐに目の前に出現させてくれます。建物は冷暖房が付き, 鉄骨製の四角な外壁で全体をつつみ, ラセン階段で屋上にのぼれます。前室には映写室を兼ねて, 大星座早見盤(直径2.5m)がとりつけてあり, 天文資料の展示があります。

昭和40年8月2日には皇太子殿下御来観の光栄に浴しました。津山科学教育博物館は展示標本約10,000点, 未展示標本数千点, 日本屈指の科学博物館で, 既存の津山基督教図書館, アマチュア無線局とテレビ実験局(JA4YAM), その後できた歴史館など一連の教育施設と共に今後の発展が望まれています。

この資料豊富な博物館を一通り見学すると, イギリスのダーウィンが100年前に5年間の世界探検旅行で発見した進化論を理解することができるでしょう。

【あ と が き】

○この号は掲載記事の種類が少なくすんでしまいました。「特別展報告」「質問コーナー」「お願いコーナー」などの投稿がないのももっとご利用いただきたいと思えます。そのほか, 館員の方々のご意見など自由に投稿下さるのをお待ちしております。